CASSIOPEIA NKANI

Vol. 44. June 2025

CASSIOPEIA―UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA　ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト

戦略的プランニングとマネジメントに関する3日間の研修でグループワークに取り組むチェルストン・ゾーン病院の各部門責任者たち。

持続可能性を重視：カシオペアプロジェクト第4回合同調整委員会を開催

チェルストン・ミニ病院、戦略的プランニング研修を実施

ルサカ州内の看護部門のリーダーが第2四半期の進捗を共有

持続可能性を重視：カシオペアプロジェクト第4回合同調整委員会を開催

2025年6月19日、ザンビア・ルサカ市にて、JICAカシオペアプロジェクトの公式な意思決定の場である第4回合同調整委員会（JCC）が開催されました。会議には、保健省（MoH）、ルサカ州保健局（LPHO）、ルサカ郡保健局（LDHO）、およびJICAザンビア事務所、在ザンビア日本国大使館の関係者が出席し、対象となる5つの一次レベル病院における支援の成果と今後の展望について意見交換を行いました。

議長を務めたケネディ・リシンピ保健省技術担当常任次官は、JICAによる継続的な支援に対し感謝の意を表するとともに、地方分権型の保健システム強化とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現を目指すザンビアにおけるカシオペアプロジェクトの意義と本会合の重要性を強調しました。また、リシンピ次官は、病院運営マネジメント、感染予防管理（IPC）と手術部位感染（SSI）サーベイランス、必須医薬品・医療材料（EMMS）、医療機器管理などの分野でプロジェクトの進捗が国家政策への波及もみられることに言及し、更なる期待を述べました。

続いて、ルサカ州保健局の臨床ケア専門官であるムシスカ氏が、プロジェクト成果の進捗状況とルサカ州保健局が保健省へ提案し、承認された主な政策提言について報告しました。紹介された提言には、「国家IPC戦略・ガイドライン」や「コレラ対応ツール一式」「SSIサーベイランスガイドラインとSOP」などがあり、全国展開に向けた取り組みが進行中です。

会議では、対象5病院の代表からも、プロジェクト最終年の目標と活動計画、期間中に直面した課題や取り組みが報告されました。中でも、バランスト・

カシオペアプロジェクトの月刊ニュースレター『Cassiopeia Nkani』を閲覧するリシンピ技術担当次官（右）、チョオンガ州保健局長（左）、ムシスカ専門家（中央）

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

スコアカード（BSC）、感染予防管理、医療機器チャンピオン制度、サテライト薬局、SSIサーベイランスなどの持続可能性について、現場から具体的なアイディアや経験が共有されました。

JICAザンビア事務所の企画調査員の福島氏からは、最終年度となる2025年度の支援方針の紹介がありました。また、最終年は、プロジェクト成果の持続性を考慮し、ザンビア側主導による取り組みの最適化、報告体制の整備、データを活用した質改善、日本側による標準化と展開への支援という進め方の重要性を強調しました。

また、JICAザンビア事務所の館山所長は、過去4年間で同プロジェクトが達成した成果を振り返り、BSCの導入による病院運営マネジメントの強化、IPC体制の改善、在庫管理の強化、医療機器チャンピオン制度の展開などを高く評価しました。プロジェクトの成果を制度化し、持続可能にするには、現場でのオーナーシップの強化と継続的な取り組みが欠かせないと呼びかけました。

なお、JCC開催に先立ち、ルサカ郡保健局による郡統合会議（DIM）の初日である6月17日に、カシオペア・プロジェクトの村井チーフが、プロジェクトの進捗と今後の支援方針を報告しました。

郡統合会議（DIM）と第4回JCCを踏まえて、最終年のカシオペアプロジェクトは、ザンビア側による取り組みの標準化と他施設への展開をしていく計画です。JCCでは17個の支援対象が明らかとなりました。

プロジェクトの終了が近づく中、ザンビア側のオーナーシップの更なる深化を図る最終フェーズの動向に期待が高まります。

第4回JCC会合参加者による集合写真。2025年6月19日、ルサカ市パモジホテルにて。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

チェルストン・ミニ病院、戦略的プランニング研修を実施

2025年6月、チェルストン・ミニ病院において、病院マネジメントの強化を目的とした戦略的プランニングおよびマネジメント研修が開催されました。3日間にわたり実施された本研修は、カシオペアプロジェクトで学び、その後異動となった関係者による企画が、ザンビアJICAフェローシップ協会（ZAJIFA）による2025年度最優秀プロポーザルに選出されたことを受けて開催されたもので、病院内すべての部門責任者を対象としました。研修では、バランスト・スコアカード（BSC）の導入と活用を中心に据え、施設全体の計画とモニタリング能力の向上を目指しました。

このプロポーザルを提出したのは、現在チパタ一次レベル病院のプランナーであり、以前はチェルストン・ミニ病院で勤務していたカネクワ・ニレンダ氏です。同氏のプロポーザルは、2023年に実施されたJICAの知識共創プログラム（KCCP）で得た学びを活かし、戦略的プランニングの課題を実現可能なアクションポイントに落とし込んだことが評価されました。

研修では、ニレンダ氏をはじめ、カフエ総合病院のチャンダ病院長、ルサカ郡保健局のカゼンベ事務官がファシリテーターを務めました。また、JICAカシオペアプロジェクトからは病院運営管理および感染予防管理（IPC）のニャンガ専門家、プロジェクトオフィサーのカパタモヨ氏が5つの一次レベル病院の取り組みとの矛盾が生じないよう技術面での後方支援を行いました。

参加者たちは、BSCの基本的な概念や実践的な活用方法を学ぶとともに、日々の業務で直面する課題に対して戦略を立てて対応するアプロー

戦略的プランニングとマネジメント研修中、チェルストン・ゾーン病院の各部門責任者と対話するカネクワ・ニレンダ氏（チパタ一次レベル病院 計画担当官、前チェルストン・ゾーン病院）

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

チや問題解決スキルを身につけました。研修では、課題の特定と分析、計画立案のプロセスを重視し、参加者は病院としての新たなビジョンを策定しました。あわせて作成されたバランスト・スコアカード（BSC）の草案は、2025年7月15日を目標に完成を目指しています。また、研修を修了した参加者には、ルサカ郡保健局より参加証が授与される見込みです。

開会式では、ルサカ郡保健局のマセカ局長が登壇し、「各部門の責任者が戦略的マネジメントの能力を高めることは、病院全体のサービスの質の向上に直結する」と述べ、バランスト・スコアカード（BSC）を継続的に運用する意義を改めて強調しました。

閉会式ではシバンダ病院長（チェルストン・ミニ病院）が「策定したビジョンを現場の行動へと落とし込み、成果につなげてほしい」と参加者を励ましました。また、今回の研修を実現させたザンビアJICAフェローシップ協会（ZAJIFA）の資金的支援と、JICAカシオペアプロジェクトの継続的な技術支援に対して感謝の意を表して研修を締めくくりました。

チェルストン・ミニ病院の今回の取り組みは、カシオペアプロジェクトがこれまで対象病院で支援してきた活動が、対象外の医療機関にも広がった事例のひとつです。

こうした展開は、プロジェクトの成果が他施設にも応用可能であることを示唆するものです。5つの一次レベル病院に端を発した戦略的プランニングが、他の医療機関でも活用できるのか。今後確認を進める上でも、チェルストン・ミニ病院の取り組みは重要な意味を持ちます。

カゼンベ氏（ルサカ郡保健局事務官）、ニレンダ氏、カパタモヨ氏（プロジェクトオフィサー）、ニャンガ氏（病院運営・IPC専門家）、チャンダ院長（カフエ総合病院）

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

ルサカ州内の看護部門のリーダーが第2四半期の進捗を共有

2025年6月5日、ルサカ州保健局（LPHO）にて、州内各医療施設の看護責任者が一堂に会し、第2四半期の進捗とグッドプラクティスを共有しました。

会議では、ルサカ州保健局が実施した四半期評価の結果を踏まえて、具体的な改善策や行動ポイントが議論されました。あわせて、チパタ病院による「看護リーダーシップスキル向上」、チレンジェ病院の「感染予防管理（IPC）」、大学教育病院（UTH）による「医療機器管理の実践」など、各施設から共有されたグッドプラクティスは、他施設への波及も期待されています。

会議冒頭では、ルサカ州保健局のチョオンガ局長が、施設運営におけるボランティア依存のリスクを指摘。依然として高水準にある妊産婦および新生児の死亡件数に対する強い懸念を示し、原因の分析と早急な対策の必要を訴えました。また、患者の包括的なニーズを把握するため、年2回の患者満足度調査を実施するよう指示しました。さらに、JICAカシオペアプロジェクトによる継続的な支援に対して謝意を述べました。

特に注目されたのが、妊産婦・新生児死亡サーベイランスおよび対応（MPDSR）の分析結果でした。また、ルサカ郡の5つの一次レベル病院で導入が進んでいる「医療機器チャンピオン（MEチャンピオン）」制度や、チレンジェ病院による「フロアマネージャー」導入の事例も紹介されました。MEチャンピオンは、医療機器の安全で適切な使用を推進する役割を担い、医療機器技術者との連携のもとで保守管理やスタッフ教育にも貢献することが期待されています。今後郡内すべての医療施設に展開することで合意が得られました。フロアマネージャーは、患者のトリアージや院内誘導を担う存在として注目されており、他施設での導入が期待されています。

会議の最後には、次回（（2025年9月予定）の四半期会議までに取り組むべき行動ポイントについて合意がなされました。

チパタ一次レベル病院のフロアマネジャーの導入について発表するチャバラ看護師。

医療機器チャンピオンとしての役割について発表するルンドゥル看護師（カニャマ一次レベル病院）

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

PHOTO FOCUS

州四半期看護リーダー会議（6月5日）で発表するムベウェ看護官（チレンジェー次レベル病院）

第4回JCC会合にてカシオペアプロジェクトの進捗を発表するムシスカ氏（ルサカ州保健局臨床ケア専門官）

チェルストン・ゾーン病院の研修中、参加者と話すカゼンベ氏（ルサカ郡保健局事務官）

州四半期看護リーダー会議（6月5日）で挨拶するバングエタ主任看護官（ルサカ州保健局）

チェルストン・ゾーン病院の戦略的プランニングとマネジメント研修で進行役を務めるチャンダ院長（カフエ総合病院）

パモジホテルで開催された第4回JCC会合に参加する関係者たち（6月19日）。

編集・デザイン：コンベ カパタモヨ
編集長：村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所：Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA
Cell: +260 765 192 865 (official)

ルサカ郡保健局統合会議（6月17日）でプロジェクトの進捗を発表する村井チーフアドバイザー（JICAカシオペアプロジェクト）

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District